平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	11	ー	30

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	武雄市児童交流事業					
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		生涯教育係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	横田和幸		氏名	佐藤公輔
事業の概要	児童を武雄市に派遣すること及び武雄市児童を受け入れることによって異なる地域の気候や生活、文化に対する理解と寛容を養うために地域間交流を図っている。			全体計画（平成 20 年度～ 24 年度）		
				事業費	国・道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	2,160 千円
					一般財源	10,296 千円
					事業費計	12,456 千円
実施方法	■ 直営		民間委託		その他（　　）	
第５期総合計画（前期）	■ 登載事業		非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	3	のびやか・雄武～教育・文化の振興～			
	基本施策	13	生涯学習・生涯スポーツの推進			
	単位施策	3	青少年教育の推進			
	事務事業の種類	■	自治事務		法定受託事務	
	その他計画・根拠等					

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	390 千円	360 千円	360 千円	1,400 千円	480 千円
	雄武町負担額（一般財源）	1,785 千円	1,547 千円	1,487 千円	956 千円	2,520 千円
	合計	2,175 千円	1,907 千円	1,847 千円	2,356 千円	3,000 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	町内小学生（5年生・6年生）	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標） 派遣児童16名、引率者4名 受入児童16名、引率者4名		
【抱える課題やニーズは】	より多くの異文化や気候風土のための体験機会の確保	指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	体験による生きる力の醸成とリーダーの養成	① 派遣児童及び引率者	目標年度	平成23年度
			目標値	20 名
			実績値	19 名
			達成度	95.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	実施後の学校及び地域等でのリーダーの期待と学ぶ意欲の促進	② 受入児童及び引率者	目標年度	平成23年度
			目標値	20 名
			実績値	20 名
			達成度	100 %

内容（どのような手段で何を行ったか）	
派遣	町内各小学校児童15名、引率者4名派遣。学校交流やホームスティを体験。
受入	武雄市児童16名、引率者4名を受け入れ。学校交流、共同合宿、雪遊びを体験。

3 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	気候、風土の違う地域との文化的・教育的な交流は、地域児童の情操教育、郷土意識の向上及び健やかな変容を図るため必要である。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 □達成 ■ほぼ達成 □下回る	派遣人数は計画通りではなかったが、本町とは違う気候や風土、生活習慣を体験でき、豊かな人間性とたくましい心が養われた。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 ■その他	事前調査により交通手段、日程等の工夫を行い経費削減に取り組んでいる。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 ■受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る □その他	5年生以上の全児童を対象として、希望者について等しく参加を認めているとともに適切な受益者負担を求めており、公平性を保っている。

4 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	A	
児童の体験交流により本事業の目的に沿う事業の実施ができている。	同左	

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持	**継続／現状維持**	
地域間交流等の体験をとおして、それぞれの次代を担う青少年の育成が図れることから、継続が必要である。	同左	

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5 その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）